

自己有用感を高める学級活動の工夫

—他者からの思いを受けたハピネスカードの活用を通して—

学級活動における課題

特別活動班 大島 康輔(小学校教諭)

- 十分な自己有用感を持って、次の学級活動を企画できていない
- リーダーシップを発揮する機会が少ない
- コミュニケーションを図るのが苦手

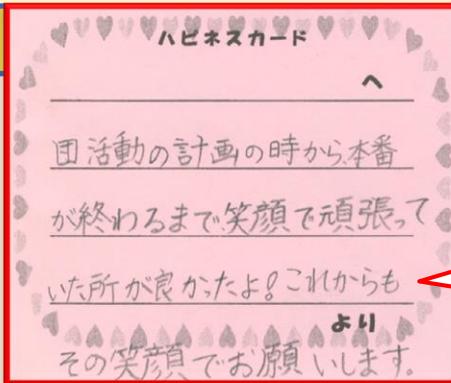
教師の願い

- リーダーシップを発揮する機会をつくりたい(異年齢交流を取り入れて)
- コミュニケーションをとることで自己有用感の向上を図りたい



手立て

- ★ハピネスカードを使用してコミュニケーションを図る★
- ・互いの頑張りを認める
- ・ありがとうの気持ちを伝える
- ・他学年への感謝や思いを伝える
- ・他の人からのニーズを知る



例 1年生→6年生
(異年齢交流を終えての感想)
地域の方→6年生
(運動会を参観した感想)

友達の頑張りを認めたカード
友達から認められていることを知り、活動に自信を持って取り組むことができる

実践①: 全校児童による団遊びについて話し合う学級活動

下級生からのハピネスカードを次の団遊びに生かす



楽しかったな、でも名前がわからなくて遊びづらいところがあった。

- 1回目の団遊びの反省を活かして2回目はさらに工夫した活動を計画する



「ハピネスカードにあった言葉」
お兄さん、お姉さんの名前を覚えることができてよかった

実践②: 全校児童による壁画制作について話し合う学級活動

下級生、保護者、地域の方からのハピネスカードを図案に生かす

- 保護者、地域の方の気持ちにこたえよう
- 下級生の思いから図案のヒントをくみとる



「ハピネスカードにあった言葉」
・学校を大切にしてほしい
・友達と仲良く過ごしてほしい
・思い出をたくさんつくってほしい
・校舎を入れてほしい
・学校行事を書き入れたい



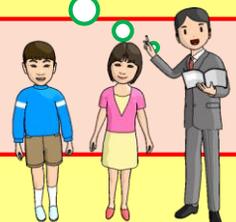
・自分たちで企画した活動を通して、自分に自信がついたみたいだ

実践後に書いた6年生のハピネスカードより

- 下級生に喜んでもらえてうれしかった(6年生)
- 団で協力して自分たちが考えた活動できてよかった(6年生)
- イメージしていた壁画より素晴らしいものになった(6年生)

成果

- 下級生に喜んでもらったことで、自分の役割を果たせたと自信が持てた。
- 友達や親に認めてもらったことで、「またやってみよう」という気持ちが持てた。
- 下級生、同級生、保護者などから認められたことで自己有用感が高まった。



提言

- 自己有用感を高めるために、子どもたちによる企画・運営・ふりかえりのサイクルをつくりましょう。
- 振り返りには、お互いの気持ちを知ることができるハピネスカードを使用しましょう。